



かわいい

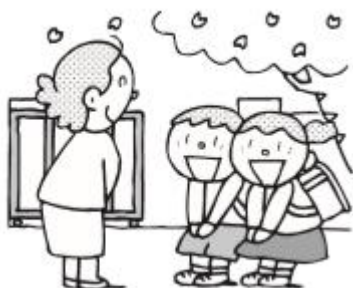


<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawai/>

「繋がり」を生むために

校長 窪田 剛久

本校は、平成30年度に神奈川県教育委員会、および神奈川県歯科医師会より「神奈川県よい歯の学校」と認定され、表彰を受けています。また令和元年度には、横浜市学校保健会旭支部より「旭区歯ッピースクール賞」を授与されました。これだけ歯の衛生習慣が身に付いているのも、歯科校医、斎藤先生をはじめ、保護者の皆様のご努力の賜物と感謝いたしております。ご協力、本当にありがとうございます。先日も、感染症対策を十分に施したうえで、歯磨き検査を実施いたしました。コロナ禍の影響で給食後の歯磨きを控えているせいも、昨年度よりも下回りましたが、それでも全校のおよそ60%もの児童がA評価をいただいております。まさに歯の健康は、本校の伝統と言ってもいいでしょう。



伝統と言えば、私達は昔から「あいさつ」を大切にする習慣をもっていると思います。いかなる業種、団体を問わず「あいさつ」を重んじているのではないのでしょうか。私が学生時代、初めてアルバイトを行ったファミリーレストランでも一番初めに「あいさつ」を教わったこと、今でもはっきり覚えています。今現在、猛威をふるい続けている新型コロナウイルスは、この良き伝統にも陰を落としています。

先日まで続いていた猛暑の中、マスクをつけて毎朝ヘトヘトになりながら登校してくる子ども達。その表情に笑顔はありませんでした。こちらが「おはようございます。」と声をかけても、それに応える元気すら使い果たした子どもたちが実に多い。そのまま顔を伏せて、私の横を通り過ぎていったのです。

新型コロナウイルス感染症は、人と人との繋がりを分断するとも言われています。ソーシャルディスタンス、リモートによる在宅勤務、そしてマスクによる表情の遮断。そういったもの一つ一つが、人と人が繋がろうとする思いを遠ざけています。そうした状況の中、子ども達は豊かな表情がマスクの下に隠され、コミュニケーションの手段を制約されています。もちろん今の子ども達の姿を受け入れ、寄り添っていく指導が大切です。日常にない負荷を被っている当事者は、子ども達でもあるからです。しかしコロナ禍であるからこそ、教育を担う学校として、意図的に「繋がり」を生む手立てを講じる必要があるとも言えます。そこで私達は「あいさつ」に力を入れていこうと話しました。

過日、文部科学大臣より「新型コロナウイルス感染症に関する差別・偏見の防止に向けて」という形でメッセージが発出されました。全人類が危機にさらされる中で、こうした差別・偏見が生まれるのはとても悲しいことです。このメッセージを受け、本校でも差別・偏見を生まない土壌を育むために全クラスで道徳の授業に取り組みました。振り返りではどのクラスの子も「なぐさめたい」「励ましたい」「支え合いたい」といった思いを、自分自身の言葉で表現していました。子ども達は本質的に、励まし合い、支え合う人間関係を望んでいます。そうした子ども達の思いを大切にしたいと思います。

人間関係を深める第一歩として、きっかけとなる「あいさつ」について指導していくことが、子ども達の心身の健康な発達に繋がっていきます。職員で話し合いをもった後、朝「おはようございます。」と元気にあいさつを返してくれる子ども達が増えてきました。マスクをしていても、その下に満面の笑みを浮かべているのが伝わります。ひとつの「あいさつ」から、人と人との繋がりが広がり、温かく支え合う人間関係が築かれます。そうした「繋がり」を実感できるように、私達は協力して子ども達を育てていきます。